

校内研修計画

甲州市立塩山北中学校

1 学校課題

近年我が国は、情報化、科学技術の高度化、国際化などめまぐるしい変化を遂げ、社会情勢は大きく変化した。同時に生徒の生活環境も大きく変わりつつある。その社会情勢を踏まえ、今後の教育課題について考えてみたとき、激しい社会の変化にも、柔軟に適応できる能力を育成することがまずは必要であると思われる。社会の変化に適応できる力、すなわち自らが進んで問題を解決し、主体的に活動できる能力をすべての生徒に身につけさせることが、学校教育の今日的課題である。

本校は、大菩薩山嶺の扇状地に広がる農村地帯であったが、近年農業人口が減少し、保護者も地域社会も価値観が多様化している。各小学校とも少人数の単級であり、人間関係が固定化し、生徒一人ひとりに目が届くことで、主体的に活動する機会が不足している。そのような中で、互いに切磋琢磨しようという姿勢や、主体的に物事に挑戦しようという意欲に欠けているように思われる。

2 研究主題

心豊かで主体的に活動する生徒の育成

～集団づくりと授業づくりの実践を通して～

3 主題設定の理由

平成15年中央教育審議会答申により「生きる力」をはぐくむという新学習指導要領の基本的なねらいの重要性が確認され、「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の育成に係る具体的な方策が提言された。そして「生きる力」の育成を重視した新学習指導要領が平成24年度から全面実施となった。新学習指導要領で示された、「確かな学力」をすべての生徒に身につけさせることが求められている。ここで示された「確かな学力」とは知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものをいう。平成24、25、26年度に実施された「全国学力・学習状況調査」などの結果については、甲州市内の学習内容の定着は概ね良好であった。しかし、特定の領域に課題が見られたり、記述式の問題に課題があることが認められた。これらの結果から、児童生徒一人ひとりの学習状況の把握を確実にし、指導方法の改善など、課題解決に向けた細かい対応が求められている。甲州市でも平成23年度より「確かな学力」育成プロジェクトを立ち上げ、「授業づくり、授業改善」「学級づくり、集団づくり」、「保護者、地域住民との連携」の3つに視点をあて取り組んでいる。

本校では、平成22年度から4年間にわたり「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～表現力の育成を図るための言語活動の工夫を通して～」という研究主題のもと、研究を進めてきた。自分の考えや思いを多くの場面で、より適切な言葉で正しく相手に表現することができるようになれば、確かな知性と心豊かな人間性をもち、より主体的に活動する生徒の育成につながる。この仮説から様々な表現力の工夫を教育活動に取り入れてきた。集団としての成果が上がる中で、新たな課題として「個の力」があげられた。そのことを受け、昨年度より「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～個の力を向上させるためのQ Uアンケートの活用～」という研究主題のもと、研究を進めてきた。甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり、集団づくり」に着目したQ Uアンケートを活用した実践は、各学級のより良い集団づくりに結びつき、学級集団としての質も向上している。このことから今年度もQ Uアンケートの活用を継続し、個の力を高め、支え合い、学び合う集団づくりを目指し研究を進めていく。また今年度は、新たに甲州

市「確かな学力」育成プロジェクトの「授業づくり，授業改善」にも注目し，甲州市ティーチャーズノートを活用した「見通し」と「振り返り」を明確にした授業実践を取り入れた授業づくりを進めていくことで，各学級集団が，より支え合い，学び合い，教育力のある，質の高い集団となると仮定し，本主題を設定した。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 集団づくり

① Q U アンケートを活用し，K 1 3 法を取り入れた支援法(エンカウンター・ソーシャルスキル)の研究と実践

② 塩北ライフの実践

- ・ 挨拶，授業規律，生活規律の徹底
- ・ 学級集団だけでなく部活動や，集会，行事を通して返事，挨拶の徹底
- ・ 日々の表現活動(スピーチ，掃除の反省会，生活記録ノート)

(2) 授業づくり

① 甲州市ティーチャーズノートを活用した「見通し・振り返り」を大切にした授業の実践

- ・ 「めあて(目標)」「まとめ(振り返り)」というマグネットを活用し，全授業で同じ形態で授業を進めるよう工夫する。
- ・ 座席表に要支援の生徒が分かるような工夫をする。→少人数の学校なので校内研の中で全職職員が把握できるようにしていく。
- ・ 1時間の授業が黒板に収まるように板書計画をたてる。
- ・ Q U を取り入れた指導案を作成する。

② 基礎学力の定着に向けての実践

- ・ 毎週行われる学力定着テスト(ランクアップテスト)，定期試験前の学習会(北斗タイム)の実施
- ・ 家庭学習への取り組み
- ・ 読書活動の推進
- ・ 夏休みの学習会の実施
- ・ N R T の実施と活用

5 年間校内研修計画

研究主任 内田 晴奈

| 研究テーマ | 教科領域等 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | T・C要請 |
|-----------------------|-------|-------|-----|------------|--------|
| 甲州市ティーチャーズノート学習会 | 全教科 | 研究主任 | 全学年 | | |
| QUアンケートの分析と活用 | 全教科 | 全員 | 全学年 | | |
| 指導案検討と研究授業 | | 研究主任 | | 10月 11月 | ○ ○ |
| 甲州市内臨地研修 (ブロック研究会) | 総合学習 | 研究主任 | 全学年 | | |
| 小中学校授業公開 (ブロック研究会) | 全教科 | 授業者 | 全学年 | 11月 1月 | |
| 塩北ライフの活用(家庭学習の手引きの改善) | 全教科 | 各教科主任 | 全学年 | | |

| 月 | 研究内容 | 教科 | 担当者 | 学年 | T.C |
|----|--|------------|--------------------------------|-------------------|-----|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 研究主題、内容、組織、計画について NRTテストの実施 ランクアップテストについて | | 研究主任 | 全学年 | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 評価についての確認 研究主題、内容、組織、計画の決定 ランクアップテスト開始 QUアンケート実施 北斗タイム | 5教科 5教科 | 教務主任 研究主任 担当 担任 全員 | 全学年 全学年 全学年 | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> K13法研修会 北斗タイム | 5教科 | 全員 全員 | 全学年 | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> QUアンケート結果の分析と活用について① | | 全員 | | |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> 第一回ブロック研究会 | | 全員 | | |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業について | | 研究主任 | | |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業① 北斗タイム | 5教科 | 授業者 全員 | 全学年 | ○ |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業② QUアンケート実施 第二回ブロック研究会【中学校授業公開】 北斗タイム | 5教科 | 授業者 担任 授業者 全員 | | ○ |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> QUアンケート結果の分析と活用について② 学校評価の実施 | | 研究主任 教務主任 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 第3回ブロック研究会【小学校授業公開】 | | 全員 | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 北斗タイム 教育課程、学校評価について 研究紀要について | 5教科 | 全員 教務主任 研究主任 | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 研究の成果と課題の確認、研究のまとめ 研究集録の作成 | | 研究主任 研究主任 | | |